

令和 8 年 第 3 回

広陵町議会定例会 議員提出議案

議員提出議案第 8 号

特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の
抜本的対策強化を求める意見書について

[1 頁]

議員提出議案第 8 号

特定外来生物「クビアカツヤカミギリ」の抜本的対策強化
を求める意見書について

上記の案件を別紙のとおり、広陵町議会会議規則第 13 条の規定により提出
します。

令和 8 年 9 月 25 日提出

提出者	広陵町議会議員	小 原 薫
賛成者	同	谷 内 和 昭
賛成者	同	吉 川 司
賛成者	同	笹 井 由 明
賛成者	同	谷 禎 一
賛成者	同	青 木 義 勝
賛成者	同	山 田 美津代

特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の抜本的対策強化 を求める意見書

クビアカツヤカミキリは、サクラ、うめ、ももなどの樹木を食い荒らし枯れ死させる国が指定する特定外来物（害虫）で、2012年に愛知県で発見されて以来、近畿各府県はじめ被害が広範囲に広がっており、奈良県の被害は2019年に初確認され、現在7割以上の市町村に拡大している。

クビアカツヤカミキリは、1匹のメスが300個（1,000個の例もある）の卵を産み繁殖力が強く、農地のみならず公園や街路樹等のサクラにも被害が及んでおり、花見文化が衰退するほか、景観や生態系への深刻な影響も懸念され地域経済にも大きな打撃となる。

現在、被害地域では発見、捕殺、伐採及びネットをかぶせて覆うなどの対策が講じられているが、被害は依然として拡大傾向にあり、産卵を防ぐ対策や、被害が出た場合の経営支援が大きな問題となっている。

クビアカツヤカミキリの脅威が迫る中、地方自治体のみの対応で侵入を防ぐ事は極めて困難であり広域的かつ一体的な対策や効果的な防除技術、防除体系の確立が急務となっている。

被害が発生してからの対応でなく被害を発生させないための予防的な対応こそが重要である。

よって国におかれてはクビアカツヤカミキリによる被害の拡大防止と地域の農業や市民生活を守るため下記の事項について早急に取り組むよう強く求める。

記

- 1 クビアカツヤカミキリ被害を全国的な重要課題として位置づけ、地方自治体等の対応に委ねることなく、国が主導する実効性のある広域的な対策を確立すること。
- 2 農林水産省、環境省、国土交通省ほか関係機関の連携強化及び地方自治体等との密接な連携を図り被害地域及び未侵入地域を含めた一体的なまん延防止対策を講じること。
- 3 クビアカツヤカミキリ対策に係る試験研究については、国が中心となって防除技術の開発を加速させること。
- 4 地方自治体及び農業者等が継続的かつ効果的な防除対策を実施できるよう十分かつ安定的な財政措置を講じること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和8年9月25日

奈良県広陵町議会議長 青木 義勝

農林水産大臣 築 和生 様

環境大臣 笹川 博義 様

国土交通大臣 井林 辰憲 様